

## 令和5年度事業報告

### 概要

令和5年度における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や新型コロナウイルス感染症の5類以降に伴う経済活動の活発化などにより、個人消費や設備投資など内需には弱さがみられるものの、円安による輸出の増加やインバウンド需要が回復していることもあり、景気は穏やかに回復しました。

一方畜産を含む食品関連業界では、コスト高に対する価格改定は進んではいませんが、全般的な物価高に伴う節約志向の動きも見られ、コスト転嫁はまだ充分とは言えません。経営コストの主要部分を占める飼料価格は、トウモロコシ等穀物価格の落ち着きを受け若干の下げに転じたものの依然として高止まりしており、また電気・燃料価格等も高騰したままであり、我が業界を取り巻く環境はより一層厳しさを増しました。

昨年は関係各位の日頃の衛生対策強化もあり、鳥インフルエンザの発生が大きく抑えられたことから、鶏卵・鶏肉の生産量は順調でした。しかし、鶏卵については一昨年の鶏卵不足に対応した加工業者の鶏卵需要が戻らないため需給失調となり鶏卵価格は下落しました。また、鶏肉についても、消費者の低価格志向から牛・豚肉に比べれば需要は堅調であるものの、ブラジル・タイ等から需要を上回る輸入があり、価格はもも肉を中心に低下傾向となりました。原材料価格の高騰だけでなく、人手不足に対応した賃金アップ分を生産コストに反映し、適正で再生産可能な雛価格の実現を目指していくことが喫緊の課題となっています。

このようななか、当協会では引続き良質ひなの安定供給を図るため、鶏ひなふ化羽数・え付けデータの収集・公表及び種鶏管理や孵卵技術の研修を行う孵化場体質強化推進事業（JRA助成事業）や、農研機構の協力の下、ニワトリの始原生殖細胞（PGCs）の凍結保存技術の普及事業を実施しました。また、アニマルウェルフェア（AW）に配慮した初生ひなの取扱い方法の普及が求められていることから、鶏ひなのふ化場における殺処分（安楽死）手法及ぶマニュアル作成のための検討会（農林水産省事業）を開催し、業界として推奨する安楽死方法の検討を行いました。さらに、より精度の高い鶏卵の需給見通しに寄与することを目的に、標準化したマニュアルに基づく鶏ひなふ化羽数調査業務を日本養鶏協会より受託し、新しい調査票に基づくデータ収集を開始しました。これらの事業にご協力を頂いた会員の皆さまにお礼申し上げます。

令和5年度に実施した各事業は次のとおりです。

## I. 公益目的事業

### 1. 種鶏導入調査事業（自主財源）

- (1) レイヤー素ひな計画生産検討会・レイヤー孵卵部会・ひな育成部会  
年度中に2回（令和5年7月13日（木）、令和6年2月16日（金））開催し、レイヤー種鶏導入実績及び種鶏導入計画を基に「令和5年次及び令和6年次の素ひな生産見込み等」について検討を行い、レイヤー素ひなの生産見込み羽数を公表した。
- (2) ブロイラー素ひな計画生産検討会・ブロイラー孵卵部会  
年度中に2回（令和5年7月13日（木）、令和6年2月16日（金））開催し、ブロイラー種鶏導入実績及び種鶏導入計画を基に「令和5年次及び令和6年次の素ひな生産見込み等」について検討を行い、ブロイラー素ひなの生産見込み羽数を公表した。

### 2. 素ひな供給安定推進事業（孵化場体質強化推進事業）（JRA 助成事業・自主財源事業）

- (1) 鶏ひなふ化羽数調査事業  
毎月全国の孵卵場（82 か所、レイヤー19 孵卵場、ブロイラー56 孵卵場、兼業7 孵卵場）を対象に実施した。レイヤーについては採卵用めすの素ひなの出荷・え付け羽数、ブロイラーについてはブロイラー用素ひなの出荷・え付け羽数について都道府県別を調査した。
- (2) 鶏ひなふ化羽数データの公表  
調査結果は、毎月概要として協会のホームページに公表すると共に、調査協力孵卵場に情報を提供した。また年報としてとりまとめて公表した。
- (3) 素ひな出荷・え付け羽数実績（全国、令和5年1月～12月）  
※採卵用めすえ付け羽数：107,049 千羽（対前年比 102.3%）  
※ブロイラー用え付け羽数：782,928 千羽（対前年比 101.1%）

### 3. 孵化場体質強化推進事業（JRA 助成事業）について

良質ひなの安定供給を図るため、鶏ひなふ化羽数・え付け羽数データの収集・公表及び種鶏管理や孵卵技術の技術研修を行い、種鶏孵卵場の経営安定化を図ることを目的とした事業。

#### (1) 素ひな供給安定推進事業：

ひなの需給予測の精度を向上させるため、鶏ひなふ化・え付け羽数データの収集・調査を実施し、調査結果について月報及び年報を作成し公表する事業。毎月ホームページ等で公表するとともに、年報を作成している。

7月には、種鶏導入実績と導入計画データを基に、レイヤー、ブロイラー共

に計画生産検討会を開催し、「第1回レイヤー・ブロイラー種鶏導入および素ひな計画生産の概要」を公表。

(2) 種鶏孵卵技術研修事業：種鶏孵卵衛生管理士研修会

孵化場の職員等を対象として、種鶏やひなの管理、孵化技術のほか、衛生問題、アニマルウェルフェア等種鶏場に関する技術研修を行う事業で、令和5年度においては、2会場（岡山、白河）で「種鶏孵卵衛生管理士研修会」を開催した。

ア. 岡山会場

開催期日：令和5年9月12日（火）～15日（金）3泊4日

開催場所：岡山国際交流センター

受講者：34名

イ. 白河会場

開催期日：令和5年10月10日（火）～13日（金）3泊4日

開催場所：(独)家畜改良センター中央畜産研修施設

受講者：28名

(3) 事業推進委員会の開催

ア. 委員構成

竹原 一明：公益社団法人畜産技術協会 参与

丹菊 将貴：(独)家畜改良センター岡崎牧場 場長

都丸 高志：(株)トマル 代表取締役会長

山上 祐一郎：(株)福田種鶏場 代表取締役社長

イ. 第1回事業推進委員会

開催日：令和5年6月7日（水）

開催場所：馬事畜産会館 会議室

出席委員：竹原委員、丹菊委員、都丸委員、山上委員、渡邊顧問、工藤事務局長

協議事項：  
・事業実施報告（前年度）、実施計画  
・研修内容等

ウ. 第2回事業推進委員会

開催日：令和6年3月1日（金）

開催場所：馬事畜産会館 会議室

出席委員：竹原委員、丹菊委員、都丸委員、山上委員、工藤事務局長

協議事項：  
・種鶏孵卵衛生管理士研修会実施報告  
・事業の進捗状況と結果  
・事業の達成目標、自己評価等の検証について

#### 4. 畜産生産力・生産体制強化事業「ニワトリ始原生殖細胞（PGCs）凍結保存技術の取得・普及」（農林水産省補助事業）について

##### （1）事業の概要：

地鶏等の生産振興を維持・継続していくために、貴重な遺伝資源である種鶏の半永久的保存を行う上で有効と考えられている精子や卵子の元になる始原生殖細胞（PGCs）の凍結保存法と始原生殖細胞からの個体再生法について、その技術者の確保が急務であり、その技術者養成のために研修会やセミナーを開催することや、技術習得に必要な機器の購入を補助することを目的とした事業。

##### （2）技術者養成に係る研究の委託：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」という）に「ニワトリ始原生殖細胞による遺伝資源保存技術者養成」という研究課題で委託し、技術導入を希望する自治体等に対して、研修会やセミナーを実施してもらうと同時に、必要な機器（顕微鏡デジタルカメラ、倒立型リサーチ顕微鏡等）の取得を委託している。

##### （3）技術習得研修会の開催：

- ア．開催時期：令和5年8月28日（月）～9月15日（金）
- イ．場所：農研機構 畜産研究部門
- ウ．参加者：東京都、高知県、熊本県の各畜産研究施設の研究員3名

##### （4）ニワトリ始原生殖細胞凍結保存セミナーの開催：

- ア．開催時期：令和5年12月21日（木）～22日（金）
- イ．場所：食と農の科学館（つくば）
- ウ．参加者：希望する自治体の研究者 8名参加  
（上記研修会で技術を習得した3名も講師助手として参加）

#### 5. 持続的生産強化対策事業のうち畜産 GAP 拡大促進（農林水産省事業）

「ふ化場の殺処分手法及びマニュアル作成のための検討会（AW 事業）」について

##### （1）事業の概要：

アニマルウェルフェア（AW）に配慮した飼養管理の普及拡大が必要とされているが、鶏のふ化場においてもより AW に配慮した初生ひなの取扱いを普及することが求められている。

よって当事業では、初生雛の取扱い方法について実態調査を行うとともに、専門家を集めた検討会を開催し推奨される手法等を検討すると同時に、その成果についてマニュアル（ガイドライン）を作成して全国のふ化場へ配布することで、AWに配慮したヒナの取扱い方法の普及を図ることとしている。

(2) 委員構成

- 新村 毅 : (大) 東京農工大学 農学部 教授  
八木 淳公 : (公社) 畜産技術協会 技術普及部部長  
都丸 高志 : (株) トマル 代表取締役会長  
赤木 八寿夫 : アミューズ (株) 代表取締役社長  
清水 章弘 : (株) ゲン・コーポレーション 代表取締役社長  
森 泰三 : (株) 森孵卵場 代表取締役  
吉田 忠司 : (株) 日本チャンキー 顧問  
山上 祐一郎 : (株) 福田種鶏場 代表取締役社長 (座長)  
白石 真也 : (株) 日本チャンキー 代表取締役社長 (オブザーバー)  
友末 琢磨 : 共和機械株式会社 代表取締役社長 (オブザーバー)  
工藤 裕治 : (一社) 日本種鶏孵卵協会 事務局長

(3) 第1回検討会 令和5年7月13日(木)

- 主な議題 ア. AWに関する情勢  
イ. アンケート内容と集計結果  
ウ. 実態調査やガスを用いた装置の試験計画の策定

(4) 第2回検討会 令和5年10月26日(木)

- 主な議題 ア. アンケート結果(まとめ)  
イ. ふ化場のひな殺処分(安楽死)装置の現地調査結果について  
ウ. ふ化場のひな殺処分(安楽死)の手法、マニュアル等について  
エ. ガスを用いたひな殺処分装置の実証、検討内容等  
オ. 海外情報等

(5) 第3回検討会 令和6年2月15日(木)

- 主な議題 ア. アニマルウェルフェアの最近の情勢  
イ. ふ化場のひな殺処分(安楽死)装置の現地調査結果について  
ウ. ガスを用いたひな殺処分(安楽死)装置の実証結果  
エ. ふ化場のひな殺処分(安楽死)の手法、マニュアル(ガイドライン)の内容について

6. 鶏卵生産者経営安定事業(養鶏協会事業)のうち「精度向上に配慮した鶏ひなふ化羽数調査請負業務」について

(1) 事業の概要:

より精度の高い鶏卵の需給見通しに寄与することを目的に、標準化したマニュアルに基づく「精度向上に配慮した鶏ひなふ化羽数調査業務」を日本養鶏協会から受託し、鶏ひなの供給数量を予測することとしている。毎月会員より報告いただいている採卵用ふ化(出荷)羽数調査に加え、卵

殻色別ひな出荷羽数および年2回の向こう6ヵ月の卵殻色別出荷羽数計画調査を行い、鶏ひなの供給予測を養鶏協会に報告し、養鶏協会は自ら調査した飼養状況を基に鶏卵の生産量を予測し、鶏卵需給見通し検討会を経て公表する仕組みとなっている事業。

(2) 委員構成

信岡 誠治 : 元東京農業大学 農学部 教授  
川田 光哉 : (株)イトーヨーカドー マルシェ部 シニアMD  
坂元 修三 : 坂本産業(株) 代表取締役社長  
中田 純司 : JA 全農たまご(株) 東日本営業本部 鶏卵課長  
渡邊 周治 : (株)ケン・コーポレーション 相談役 (座長)  
後藤 裕司 : (株)ケン・コーポレーション 技術情報部門 部門長代理  
浅木 仁志 : (一社)日本養鶏協会 専務理事 (オブザーバー)  
石井 馨 : (一社)日本養鶏協会 業務第二部長 (オブザーバー)  
入江 洋雄 : (一社)日本養鶏協会 業務第二部 主事 (オブザーバー)  
都丸 高志 : (一社)日本種鶏孵卵協会 会長 (オブザーバー)  
工藤 裕治 : (一社)日本種鶏孵卵協会 事務局

(3) 第1回検討委員会 令和5年8月31日(木)

主な議題 ア. 鶏卵をめぐる情勢  
イ. 直近の「レイヤー種鶏導入および素ひな計画生産の概要」  
ウ. 現状の調査票と調査票の記入方法等  
エ. 調査票、協会内での集計上における課題等  
オ. 新調査票と記入マニュアル(案)について

(4) 第2回検討委員会 令和5年12月19日(火)

主な議題 ア. 鶏卵をめぐる情勢  
イ. 新調査マニュアル、新集計マニュアルについて  
ウ. 過去6ヵ月卵殻色別鶏ひな出荷羽数実績  
エ. 向こう6ヵ月の卵殻色別鶏ひな出荷計画  
オ. 成果物の提出 令和6年1月15日 (別添内容)

II. 種鶏孵卵経営対策事業(自主財源事業)

1. 地域協議会等組織強化事業

(1) 地域協議会

ア. 東日本レイヤー孵卵協議会

総会

開催日 令和5年5月25日(木) 16:00~

場所 馬事畜産会館 会議室

- 議題等
- ・令和4年度事業報告及び決算報告
  - ・令和5年度事業計画及び予算案
  - ・情勢報告、意見交換、その他

参加者 8社6名

#### 現地協議会

開催日 令和5年9月6日（木）16：15～

場所 月岡温泉 華鳳（新潟県新発田市）

- 議題等
- ・アニマルウェルフェアに関する新たな指針について
  - ・地域情勢、情報交換
  - ・役員改選について
  - ・その他

参加者 協議会会員8社8名、協会事務局1名 計9名

#### イ. 中部レイヤー孵卵協議会

##### 通常総会

開催日 令和5年3月28日（火）17：30～

場所 国際観光日本料理店 舞鶴館（名古屋）

- 議題等
- ・令和4年度事業報告並びに貸借対照表、収支決算書の承認について
  - ・令和5年度事業計画並びに収支予算書（案）の承認について
  - ・付帯決議案

参加者 会員出席5名（書面による議決権行使1名含む）

#### ウ. 九州・四国レイヤー孵卵協議会

##### 通常総会

開催日 令和5年6月21日（水）15：00～16：40

場所 リファレンスはかた近代ビル（博多区博多駅）

- 議題等
- ・令和4年度事業報告及び収支決算に関する件（監査報告）
  - ・令和5年度事業計画及び徴収方法の件
  - ・会費の賦課及び徴収方法の件
  - ・その他

参加者 会員出席6名（委任状1名含む）

#### エ. 東日本ブローラー孵卵協議会

##### 通常総会

開催日 令和5年7月26日（水）

場 所 福島県母畑温泉 八幡屋  
議題等 ・令和4年度事業報告及び収支決算報告承認の件  
・令和5年度事業計画及び収支予算（案）承認の件  
講演会 演題 「養鶏場における高病原性鳥インフルエンザ発生事例  
（令和4年度）の分析と対策」  
講師 (株)PPQC 研究所 代表取締役 白田 一敏 様  
参加者 13名

オ. 西日本ブロイラー孵卵協議会

総会

開催日 令和5年7月20日（木）14:00～16:00  
場 所 福岡朝日ビルB1F  
議題等 ・令和4年度事業報告及び決算報告  
・令和5年度事業計画及び収支予算  
・中央情勢  
・鳥インフルエンザ発生等の移動禁止内の制限解除の県対応  
の一律化について  
・要望として、各県に種鶏孵卵協会設置の要望等  
・アニマルウェルフェア対応について  
・各社近況報告  
参加者 16社32名、協会事務局1名 計33名

(2) 原種鶏部会

ア. 総会

開催日時 令和5年7月26日（水）17:00～  
場 所 夢一膳（郡山市駅前）  
議 題 ・令和4年度事業報告及び決算報告  
・令和5年度事業計画及び予算案  
・その他  
出席者 都丸会長、原種鶏部会7社9名、オブザーバー1名

イ. 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室との意見交換会

開催日時 令和5年6月28日（水）14:00～  
場 所 WEBにて  
議 題 食料安全保障、安定供給に関するリスク検証等  
出席者 農林水産省 大臣官房政策課4名、畜産振興課1名、動物衛生課2名  
原種鶏部会5社8名、日孵協1名



ウ. 農林水産省と情報交換会

開催日時 令和5年12月19日(木) 15:00～

場 所 農林水産省

議 題 農水省に対する質問／要望事項に対するか回答及び質疑  
応答

出席者 農林水産省 動物衛生課3名、動物検疫所1名、畜産振興課  
1名

原種鶏部会7社8名、日孵協2名(都丸会長、事務局長)

(3) 国産鶏普及協議会

ア. 総会

開催日時 令和5年7月3日(月) 14:00～

場 所 馬事畜産会館 第3会議室

議 題 ・令和4年度事業報告及び決算報告  
・令和5年度事業計画並びに収支予算案  
・令和5年度会費徴収について  
・国産鶏飼養優良経営農家表彰について  
・その他

出席者 日比野会長、森副会長、他会員5名、来賓4名、報道関係  
5名 合計16名

2. 鶏卵・鶏肉の消費促進事業

全国鶏肉消費促進協議会(事務局 一般社団法人日本食鳥協会) 総会

開催日時 令和5年7月18日(火) 16:00～

場 所 日本食鳥協会会議室

構成団体 (協) 日本飼料工業会、JA 全農、(一社) 日本養鶏協会、  
(一社) 日本食鳥協会、(一社) 日本種鶏孵卵協会

主な事業 国産チキン祭りへの後援及び助成

3. 令和5年定時総会・理事会等の開催概要

(1) 第48回定時総会

開催日時: 令和5年5月25日(木) 13:30～

場 所 : 馬事畜産会館

出席会員: 総会員数80名中、実出席23名、委任状16名、書面議決  
22名、計61名

議 題 : 第1号(報告事項) 令和4年度事業報告

第2号(決議事項) 令和4年度貸借対照表及び賞味財産増減

計算書承認の件

- 第3号（報告事項）令和5年度事業計画
- 第4号（決議事項）令和5年度予算案承認の件
- 第5号（決議事項）令和5年度会費及び徴収に関する件
- 第6号（報告事項）会員の異動状況
- 第7号（決議事項）理事選任に関する件
- 第8号（報告事項）令和5年度の協会行事予定について

(2) 令和4年度協会監査

開催日時：令和5年4月14日（金）10：00～

場 所：協会事務所

監 事：谷藤 広志（小岩井農牧(株)）、山下 眞（(株)一宮家禽孵卵場）

監査事項：令和4年度事業報告、収支決算及び貸借対照表、賞味財産増減計算書、財産目録、監査講評

(3) 令和5年度第1回理事会

開催日時：令和5年4月14日（金）14：00～

場 所：馬事畜産会館 会議室

協議事項：・定時総会提出議案について

(4) 令和5年度第2回理事会

開催日時：令和5年5月25日（木）15：30～

場 所：馬事畜産会館会議室

協議事項：役員選任の件

(5) 令和5年度第3回理事会

開催日時：令和5年7月14日（金）10：00～

場 所：馬事畜産会館会議室

協議事項：・令和5年度事業推進状況  
・旅費規程の見直しについて  
・協会50周年行事、記念誌の進め方について  
・ワクチン終売情報に係る消費安全局との意見交換  
・大臣官房政策課食料安全保障室との意見交換について  
・飼養衛生管理指導等指針の一部変更について 等

(6) 令和5年度第4回理事会

開催日時：令和5年10月27日（金）13：30～

場 所： 八重洲倶楽部会議室

協議事項： ・令和5年度事業推進状況

・新規正会員の承認について

・処務規程の改定について

・協会50周年行事、記念誌に係る役員について

・税理士事務所との顧問契約締結について 等

(7) 令和5年度第5回理事会

開催日時：令和6年2月15日（木）14：00～

場 所： 馬事畜産会館会議室

協議事項： ・令和5年度事業報告及び決算見込みについて（中間報告）

・令和6年度事業計画及び予算案（暫定）について

・令和6年度協会年間行事予定

・協会50周年記念行事等について

・会員の異動状況 等

(8) 令和5年度正副会長会

理事会の前段で、理事会内容の確認等（開催日時、場所は理事会同様）

(9) 令和5年度経営セミナー

開催日時：令和6年2月16日（金）13：30～

場 所： 馬事畜産会館会議

内 容：

① 演題：鳥インフルエンザの現状と今後の展望

講師：迫田 義博 氏（北海道大学 大学院獣医学研究院 教授）

② 演題：世界情勢を受けての穀物事情

講師：澤西 哲典 氏（丸紅株式会社 穀物油糧部 穀物課 担当  
課長）

以上